

# 士

「十を知り、一を見出す」

天草高等学校  
ASクラス通信  
NO. 1  
R 8. 4. 1 6  
文責 宮崎 一

～10年目のSSHが始まりました！～

いよいよ令和8年度のASⅡ・Ⅲが始まりました。今年はSSH通算10年目となる節目の年となります。ASクラス8代目(3年生)、9代目(2年生)の皆さんにはますますの活躍を期待しています。

さて、年度当初にあたり、主任より以下の2つをお願いします。

- ①：研究活動と勉強を両立させる
- ②：視野を広く持つ

①については、書いたままの意味です。3年生は2学期末の論文提出まで活動は続きます。基本的には週1時間の「ASⅢ」の授業時間内で進めていきますが、計画的に進めていかないとはいけません。両立を図る中で、計画的に物事を進める自分なりの方法を見つけてほしいと思います。2年生も同様に計画性が大切です。

②について説明します。上述の計画性にも通じるがありますが、何事も先の見通しが肝心です。「この今の自分が、どのような未来の自分を作るのか。」を見通して何事も進めてほしいと思います。また、周りの人を慮ることに視野の広さを発揮してほしいです。研究活動では、着実に進めていくために見通しを持つことは重要です。グループでの研究活動や研究発表などで相手への配慮が必要です。ぜひ、研究活動を通じて視野を広く持った人間に成長してほしいと思います。

以上、2つのお願いです。ちょっと大変なこともあるかなと思いますが、実現を目指してほしいと思います。もし、どうしてもいかわからなくなったら、私を含めて先生方を頼ってください。明確な回答は出来ないかもしれないけど、一緒に考えることはできます。どうぞ遠慮無く相談してください。

～通信のタイトルについて～

大学や大学院を卒業すると、「学士」「修士」「博士」などの学位を得ます。これら学位に含まれる「士」の意味や成り立ちを以前調べたことがあります。基本的な意味は“身分・資格をもつ人物”や“志を立てた人物”で、成り立ちは“まっすぐ立つ人の姿を描いた象形文字”だそうです。

調べていく中で、副題にもなっている「十を知り、一を見出す」がありました(こじつけとの説と、孔子が言っているとの説と諸説あります)。研究活動では、多くを学び(十を知り)、本質をつかむ(一を見出す)ことが最終目標となります。高校での研究活動では、本質をつかむまでは到達できないかもしれないけど、いつの日か皆さんがそれぞれの道で「士」となることを期待して、このタイトルとしました。



今年度のASクラスメンバーです(一部欠席や隠れてます)

～SSH研究主任紹介～

氏名：宮崎 一 (みやざき はじめ)

担当教科：地学(理科) 担当部活動：科学部 校務分掌：SSH研究主任

趣味：写真撮影(子供+天体)、模型作成(ガンプラ)、化石採集

悩み：飛行機が苦手(耳が痛くなる)なのに、飛行機を使った出張が多いこと